

平和学習講演会のごあんない

核兵器のない世界は実現できる ・・・核抑止論の矛盾

(世界平和アピール7人委員会・長崎講演会サテライト企画)

- 日時 2013年11月29日(金)10時～12時
- 場所 佐賀市ほほえみ館 4階視聴覚室
- 講師 世界平和アピール7人委員会
小沼 通二(こぬま みちじ)氏



2004年から世界平和アピール七人委員会事務局長、2006年から委員。神奈川歯科大学理事、慶應義塾大学名誉教授など。専門は物理学(素粒子理論)。1931年東京生まれ。1958年東京大学大学院修了。日本物理学会元会長、アジア太平洋物理学会連合元会長、バグウォッシュ会議(1995年ノーベル平和賞)評議員などを歴任。ハンガリー科学アカデミー名誉会員、素粒子メダル功労賞。J. ロートプラットほか著『核兵器のない世界へ』を共同して監訳(かもがわ出版)、『湯川秀樹日記―昭和九年:中間子論への道』編(朝日新聞社)ほか。

●世界平和アピール7人委員会とは?

1955年の発足以来、人道主義と平和主義に立って、国際間の紛争は絶対に武力によらず、平和的な話し合いで解決すべきであると考え、国内・国外に意見表明を続けてきた不偏不党の有志7人の会です。これまでに109本のアピールを発表し、毎年11月に国内の各地で講演会を開催しています。

【講演の骨子】

ビキニ水爆実験の翌年、ラッセル・アインシュタイン・湯川秀樹たちは、「核兵器のない世界」と「戦争のない世界」の実現を呼びかけました。それから68年たった今日、核兵器保有や核の傘依存政策が続いています。核軍拡競争と拡散の連鎖が続くなかで、市民や科学者は核兵器廃絶に向けて熱心に努力を続けてきました。冷戦が終結し核兵器の削減が始まった今日でも、東アジアと中東では不安定な情勢が解消していません。核廃絶への抵抗勢力もなくなっています。しかし先月、日本政府は初めて「核兵器使用はいかなる場合でも非人道的だ」とする国連での声明に賛成しました。この意味を考え、核兵器保有と核の傘依存による核抑止論が矛盾に満ち、破たんしていることを、皆さんと一緒に確認し、これからの選択枝を見据えることにしましょう。

- 参加費 無料
- 主催 コープさが生活協同組合
- 問い合わせ・参加申し込み先 ※当日参加も可

〒849-0934 佐賀市開成3丁目3-28 コープさが生活協同組合 総務部(牧)
電話 0952-31-9111 FAX 0952-31-4291 E-メール maki-koudou@kyushu.coop